

【千總文化研究所が開発を進める次世代育成プログラムとは】

世界が抱える社会課題が複雑化し先が見通せない昨今において、幅広い知識と視野を持ち、それらを横断的、俯瞰的に捉える思考力や創造力が必要と考えられています。そうした資質・能力を育成するため、学校教育においては理系・文系の分野を超え複数の教科を連携させる「横断的・総合的な学習」等の方法論が検討され、様々な試みが進められています。

千總文化研究所は、2021年より染織技術や染織文化を題材とした教育プログラムの開発を、教育工学の専門家や京都市教育委員会の協力のもとに進めて参りました。

日本文化には、より美しいもの、品質の高いものを作り出すために人の知恵と美意識、作り手の探究心が凝縮されています。言い換えれば、日本文化を研究することは、人間の思考力や創造力を明らかにすることでもあります。日本の文化財の研究機関である当研究所が、教育プログラムを開発する理由は、ここにあります。

日本の染織文化や染織技術を学問として分解すると、染めや織りの技術は化学や工学、絹や麻といった素材は農学、模様は植物学や文学などといったように、自然科学から人文科学まで様々な学問分野が横断して構成されていることが見えてきます。



2022年には、染織技術、色や模様などきものに関わる事柄を学校で学ぶ科目と結びつけ、学問分野を横断した学びを提供するプログラム「きもの科学部」を設計・実施しました。プログラムでは、学問と社会と文化芸術のつながりや、自然界と人間社会との関係性について教科を横断・統合して学ぶことができます。

次世代を担う子どもたちには、日本文化の本質を理解し、未来を考える力を身につけてほしいと考えています。

今後「きもの科学部」を課外プログラムとして開催するほか、国内外の教育機関・専門家と連携した異文化交流や教育教材開発への展開を進めます。

これらのプロジェクトが、今回の「五感から知る言葉にならない日本の美」の収益により運営されます。きもの以外の分野への応用も視野に、文化芸術を題材とした次世代の創造力や思考力育成の社会実装を目指して参ります。



2024年の次世代育成プログラム「きもの科学部」については、右記QRコードよりご覧ください。



【お問い合わせ】

一般社団法人千總文化研究所

TEL 075-211-2531（平日10:00～17:00）

E-MAIL info@icac.or.jp

【一般社団法人千總文化研究所とは】

1555年に京都で創業して以来、着物をはじめ様々な染織品手がけてきた株式会社千總ホールディングスを母体として2017年に設立されました。千總がもつ美術品や歴史資料、染織技術といった有形・無形の文化財を「美」「技術」「京都」の3つのテーマのもと、学際的調査研究、教育活動を行なっています。